

訪問歯科衛生指導に取り組む 歯科衛生士養成の試み

あおぞら診療所

山口 朱見

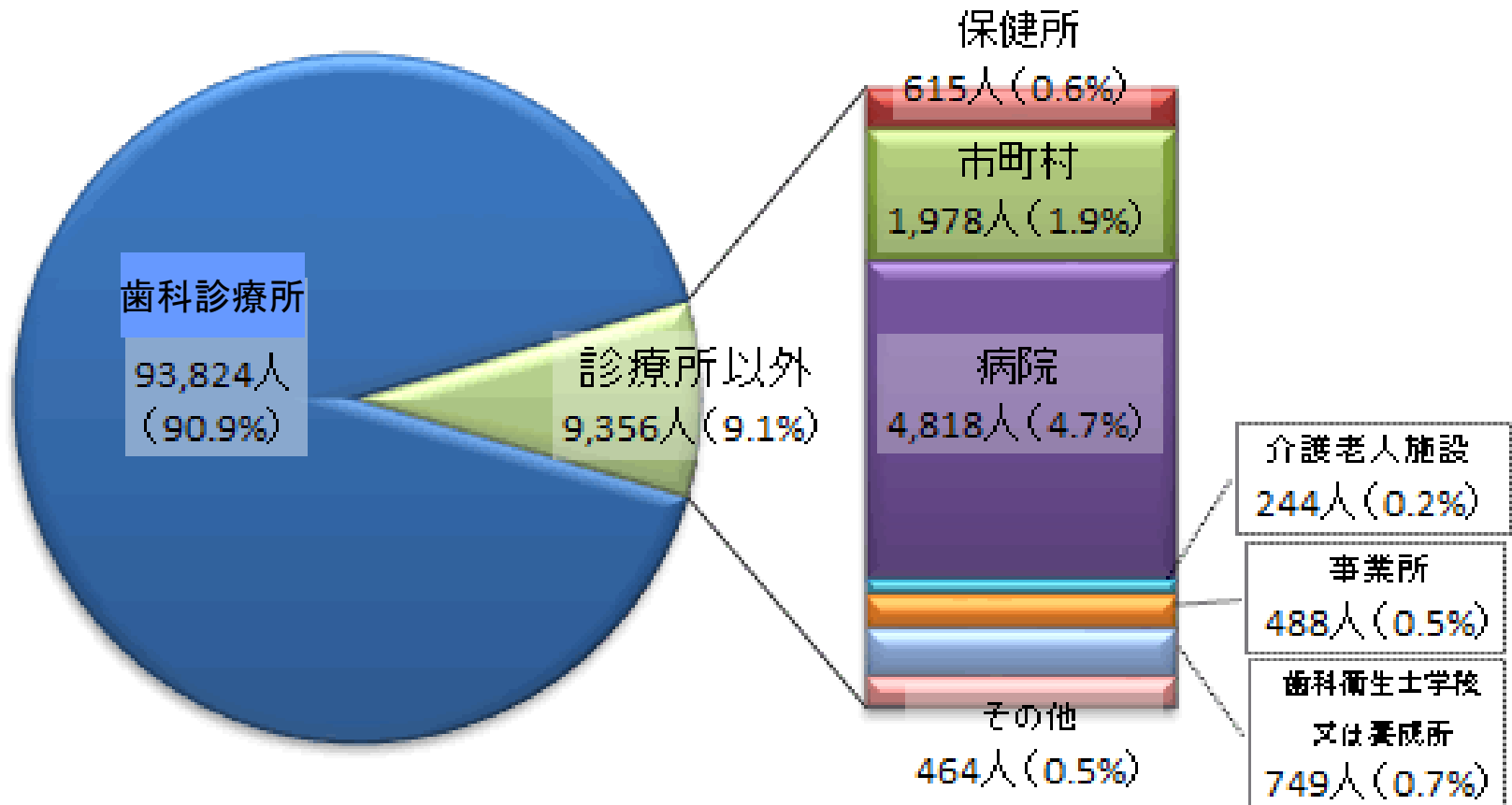
川越 正平

昨年度の連携拠点事業～医科歯科連携～ から見えてきたもの

➤ 口腔ケアのニーズが高い在宅患者の例

- 肺炎を繰り返す
 - 胃ろう管理を行っている
 - 認知症で痛みを訴えられない
 - 癌や神経難病を含む終末期
- セルフケアが十分にできない

在宅で働く歯科衛生士はごくわずかか



日本歯科衛生士会HPより

「就業場所別にみた就業歯科衛生士数」平成22年度末調査

歯科衛生士研修の目的

～歯科医院での臨床では経験できないこと～

- 統一した口腔ケア手技の習得・向上
ケア方法を習得し様々な状態の口腔のケアにも対応
- さまざまな病態への理解
認知症 や 全身疾患・合併症
- 他職種との連携・協働
ケア内容の伝達 や 情報共有
- 個別性への柔軟な対応
家族の意向 や 療養環境、様々な事情

在宅における訪問歯科衛生指導の前段階として
居住系施設をフィールドとする研修プログラムを企画

“歯科衛生士道場” の実際

- グループホームにて3カ月間
週2回 計20回
- 研修の流れ（1回2時間）
入居者4～5名に対して
研修DH2名，指導DH1名で介入
一人20分程度のケア時間を確保
- DH9名でシフトを構築
一人平均4.4回経験した



DH2名がペアになり入居者の口腔ケアを行う

統一して行った口腔ケアの内容

➤ 口腔清掃

- 歯垢除去
- 食物残渣除去
- 舌や粘膜部分の清掃
- 義歯の清掃

➤ 舌・口唇・口腔周囲筋の運動

➤ 口腔内のマッサージ

➤ 口腔周囲筋のマッサージ

※各入居者に対し2週に1回介入



口唇のマッサージを行う

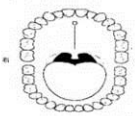
介護職への手技指導の実際

書面でも

- 開口方法（口角部の広げ方）
- ブラッシングの手技
- 歯間ブラシの手技
- 舌のブラッシング
- 義歯の清掃

〇〇〇〇様

口腔ケア内容のご報告




お口の中、全体的に汚れが残っていました。
お食事後は出来るだけ入れ歯をはずして
口をゆすぐだけでもいいので、口の中の食べカス
をキレイに拭きあげられると良いと思います。
特に、歯磨きのときに一緒に歯間ブラシを
使用してあげると良いと思います。

平成 〇〇 年 〇 月 〇 日

担当歯科衛生士： 〇〇, 〇〇

〇〇〇〇さん

- ・上下義歯の清掃
- ・歯牙、残根（3本）左の清掃、うがい



舌の裏側（舌の裏側）を
舌ブラシで清掃
舌の裏側、舌の裏側を
舌ブラシで清掃して下さい。

使用部分には舌ブラシを通し、舌の裏側を
清掃。
舌の裏側の動きは、低下している。定期的な会話や
意識し難い（舌、口唇）ことが望ましいと思います。
H24.10.9

➤ 現場のレベルに合わせた ケア内容の設定

ex..1日1回夕食後に歯肉の炎症が起きている
部分への歯間ブラシを介助にて行う



グループホームに及ぼした効果

- 歯科診療の適応
 - ・ 必要な方に導入できた
- 臨床症状の改善
 - ・ 歯肉炎症の軽減
 - ・ 口臭の軽減
- 介護職が行う口腔ケア
 - ・ 頻度が増え、その内容も良くなった
- 行動変容
 - ・ 歯科に対する拒否感の軽減
 - ・ 食後の口腔ケアの習慣化

ま と め

- 在宅患者における口腔ケアニーズは極めて高い
- 訪問看護師が在宅の根幹を支えることと同様に
歯科衛生士の活躍が必要不可欠
- 在宅に赴く前段階として、GH入居者への口腔
ケア経験を積む“歯科衛生士道場”を設けた
- 9名のDHが手技の向上や病態への理解、他職種
との協働、ケア方針立案等を学ぶことができた
- 共に学び、共に臨床に従事することが向上の近道
- 患者や介護職にも様々な効果を及ぼしており、
他地域でも実施可能な方法と考えられた

ご清聴ありがとうございました



口腔ケア：戦略と展望

- 在宅医療を数多く手がけるならDHとの協働は必須であり、歯科の標榜に関わらず自前で雇用する(常勤・非常勤)のが最も効果的
- 研修を終了したDHが次期研修の指導役を担うとともに、歯科医師とマッチングを行い在宅患者の訪問歯科衛生指導に従事する
- 受講者からの講習料を原資に指導にあたるDHの報酬をまかなう形をとれば、本システムを一般化することが可能